

「MDR」は、M（盲導犬）D（醍醐）R（リサイクル）からとったもので、平成6年（1994年）から始めた盲導犬購入資金を集める活動である。

（１）取組の初年度

平成6年5月1日の創立記念行事で、関西盲導犬協会の方に「視力障害者の現状と盲導犬の役割」を題として講演をしていただいた。その際、クイールによる盲導犬の実演（アイマスク体験）もあり、盲導犬の役割の大切さや盲導犬の足りない現状を知った。この講演に刺激を受けた当時の生徒会本部役員から「自分たちにできることはないか」「盲導犬を贈るために何かできないか」という意見が出て、まず盲導犬を一頭購入するために必要な約150万円を集めたいと、募金活動と廃品回収活動をおこなう運びとなった。そこに至るまでに、教職員の側では職員会議等での度重なる検討を行い、また生徒の側では、生徒総会での特別決議提案や生徒会リーダー講習会での討論、それに基づいた班や学級での会議などを積み重ねた。

募金活動は、地域の店に募金箱を設置していただいたり、また体育祭・文化祭で保護者に募金を呼びかける形で実施した。廃品回収活動は、対象を新聞、牛乳パック・アルミ缶とし、新聞は10月20日に北地区、11月7日に南地区と2日間にかけて回収活動を行った。また牛乳パック・アルミ缶は、毎週火・木曜日を回収日とし、生徒が各地域や家庭から持ってきて教室で集約した。募金活動と廃品回収活動によって、約12万円集まり、12月24日に関西盲導犬協会に盲導犬資金として贈呈した。この活動の地域への連絡は、各町の回覧板を回していただいて周知した。地域の協力がこの活動の支えであったことは言うまでもない。多くの生徒が地域の方々に励まされ、大変な労力のかかるこの活動に対する意欲を持ち続けることができた。また、この活動によって地域の方々の学校に対する評価が高まり、学校と地域との関係がより好転したことも追記しておきたい。

生徒の感想

- ・ 廃品回収って何のためにやるんだろう。初めのうち、そう思っていた。だけど、活動している内にだんだんと分かってきた。皆が協力すれば何かの形で現れるんだなあと思います。「めんどくさい」という気持ちもあったけど、今はこんな活動ができてうれしいです。人のために頑張れた、力になれたことがすごくうれしい。小学校とは違い、「人のため」ということは初めてかもしれない。困っている人がいれば助けてあげられるような人間になりたいです。これからもずっと。一人でやれば少ないけれど、みんなでやれば多くなる、ということを知りました。醍醐中学校全体で頑張れたのがうれしいです。ずっとこんな活動を続けたいです。3学期にも廃品回収があるので、そのときは2学期以上に頑張ろうと思います。

- ・ 初め廃品回収と聞いて、面倒とは思いませんでした。それが当たり前で、どこの学校でもやっている一つの行事だと思っていました。それからしばらくして、それがすごいことだと知りました。「醍醐中っていい学校やなあ」と思いました。他にも、いじめはほとんどなく、どの学年も仲がいいからです。廃品回収でも、やってみれば寒かったけどすごく楽しかったし、良かったと思います。他の学校ではできないような、周りに役に立つことをこれからもずっと続けたいです。そして、もっと周りの人に一人一人が優しい心遣いができるいい人になりたいと思っています。この優しさを「いじめ」とかにも生かしていきたいです。
- ・ 廃品回収をする前は「めんどくさそう」と思っていた。けど、いろいろな家を回ったりしてやってみると、結構楽しかった。トラックにたくさんの新聞をのっけても、思ったよりたくさんのお金はなかった。でも、「ちりも積もれば山となる」。きっと少しずつの積み重ねが一つになったとき、うれしく思うんだろう。何か、困っている人のために何かするってすごくいいこと、すごく美しくきれいなことだと思う。廃品回収の時のみんなの活動ぶりは立派だと思う。今、こんなことをしている学校は少ないと思う。だから、もっとこの活動を広めて、もっとたくさんの盲導犬を育てられたら……。私は、今醍醐中学校の一員として、私達の学校は本当にすばらしい活動に取り組んでいると、胸を張って言える。

(2) 2～3年目での改善

生徒総会での廃品回収活動の継続に向けた決議や生徒会リーダー講習会での討論を踏まえ、いくつかの点を改善した。

- ・ 廃品回収係を各クラスで選出する（開始当時は評議委員）。
- ・ 回収物を、古紙（新聞・雑誌・段ボール）・牛乳パック・アルミ缶とする。
 - 牛乳パックは、中を洗い、切って一枚の紙にして持っていく。
 - アルミ缶は、中を洗い、つぶして持ってくる。
- ・ 地域での回収場所を2カ所から3カ所に、回収回数を2回から3回に増やす。
- ・ 回収の約10日前に、各班の担当区域にピラをまく。（初年度は町内の回覧板を活用）
- ・ 活動の核となる生徒会本部役員が、全員で関西盲導犬協会に見学に行った。

(3) 活動名称の決定（4年目）

この活動の名称を「MDR」と命名。生徒会本部から全校生徒へ、この活動の名称を広く募集し、盲導犬（M）醍醐（D）リサイクル（R）から「MDR」とした。それに伴い、係名も「MDR係」とした。また、当初盲導犬一頭約150万円と言われていたのが、この時点で約200万円となっている。3年間で集まった金額は約49万円のため、まず一頭分の金額を集めるために学校として継続して取り組むことを確認した。

(4) 回収物の変更(中盤期)

以上の経過で進んできた活動が、一つの転機を迎えた。広く古紙や牛乳パック、空き缶などの廃品回収を行ってきたが、時代の変化で古紙や牛乳パックの換金がなされなくなってきたため、回収する対象を検討する必要に迫られた。継続して活動を進めていこうとすれば、活動の大変さに比べて実の少ないものはそぎ落としておかななくてはならない。教職員や生徒会本部生徒を中心とする度重なる検討の結果、古紙と牛乳パックの回収をやめ、アルミ缶とスチール缶の空き缶回収に絞ることにした。ただ、すぐに中止すると地域の方が持ってきていただいている古紙や牛乳パックが無駄になるため、中止した段階で集まっていたものは廃品として回収した。

(5) 活動後期

当然のことながら、生徒は3年で卒業していき、教職員も入れ替わりがある。そんな中で、この活動を維持していただけても大変なときもあった。それを乗り越えられたのは、地域の理解と協力が何よりの支えであった。南校舎の入り口に空き缶置き場を設置しているが、生徒が回収に回らない時期でも地域の方が自主的に学校まで運んで下さり、空き缶置き場においていただける。また、空き缶回収となるとトラックを出して下さる地域の方、一緒に手伝って下さる方、空き缶を運ぶ生徒達に声をかけて下さる方、醍醐中学校の空き缶回収日のために空き缶をためて下さる方々、言い出したらきりがない地域の方々の温かい励ましの上にこのMDR活動が成り立っていることを、決して忘れてはならない。

(6) 昨年度までに集まった金額

| | |
|------------|-----------|
| 1994/12/24 | 126,934 |
| 1996/03/08 | 143,421 |
| 1997/03/11 | 217,107 |
| 1998/03/06 | 202,064 |
| 1999/03/09 | 143,163 |
| 2000/03/08 | 198,332 |
| 2000/11/11 | 5,000 |
| 2001/02/17 | 62,000 |
| 2002/03/12 | 89,000 |
| 2003/03/11 | 140,000 |
| 2004/03/10 | 143,000 |
| 2005/03/14 | 180,744 |
| 2006/03/14 | 179,269 |
| 総額 | 1,830,034 |

(7) 今年度の取組

12年目を迎えるこの活動が、どのような思いを持って始まり、今日に至っているのかをまとめる作業に着手した。開始当時から10年以上が経過したこの活動が本来持っていた熱い思いにふれ、現在まで続く醍醐中学校の伝統に触発されることで、今後の活動への意欲を喚起することを狙いとした。

まず、平成6年当時のことをよく知る教職員の方に来校していただき、全校生徒に講演をしていただく機会を設けた。生徒は熱心に話を聞き、当時のことを聞く中でこの活動の意義を再確認することができた。

生徒の感想

- ・ 私はMDRのピラ配りを初めてやったとき、地図もわかりにくくて大変だし、めんどくさいなあと思っていました。でも、缶の回収に行ったとき、たくさんの方が缶を出して下さっていて、とてもうれしかったです。先生のお話の中に出てきた先輩と同じような気持ちになりました。MDRの始まりを詳しく教えて下さって、これからの運動のためになったと思います。これからも続けていきたいです。
- ・ MDR活動の始まりや活動の内容を話してもらって、とても面白かったです。最後に聞いた盲導犬が足りていないというのには驚きました。これからもできる限りの協力はしていきたいと思います。
- ・ 山本さんの話は、聞いていてとてもその場の情景が頭に浮かんだ。先輩方が頑張っていて取り組んでいることを私達が受け継いでいて、私はあまりMDRのことを理解していなく、盲導犬のこともあまり知らなかったけど、今日話を聞き、MDRをもっと積極的にしたいと思ったし、私でも役に立ちたいと思いました。
- ・ 「だるいなあ」と思っていたMDR活動も、今日話を聞いてすごいなあと思った。今日本では1000匹以下の盲導犬しかなくて、目の不自由な人は困っていると思う。だからそんなことを考えて、これからのMDR活動、精を出して頑張っていきたいと思う。
- ・ MDRは生徒から始まったなんて知りませんでした。こんなことをやるなんて、すごいと思いました。こんな講演が聴けて良かったです。
- ・ 昔の一人の生徒が言い出したことが生徒総会に出て、全校に広がった。その人がいなかったら、今のMDRもこれからのMDRもなかったでしょう。MDRは目の不自由な人にとって必要な活動です。だからもっと頑張りたいと思います。

こうした講演会を受けて実施したピラ配りや空き缶回収では、以前より意欲的な生徒達の姿が見られ、活動の意義付けの大切さとそのことによる生徒の変容に驚かされた。この活動が始まった時は、盲導犬を一頭育てるのに必要な費用が約150万円だったものが、現在は約250万円になっている。「盲導犬一頭」を目標に始めたこの取組を、まず目標達成を目指して進めていきたいと考えている。